

佳作

小さな挑戦、大きな未来 青森県板柳町立板柳中学校 3年 芦田 峰々

私の夢は、医者になることです。この夢を持つようになったきっかけは、小学生の頃にあるテレビドラマを見たことでした。ドラマの中では、緊急救命の現場で医師や医療スタッフが一丸となって患者さんの命を全力で救っていました。命を前に決して諦めない姿に感動しました。私も、こんなふうに人の命を救いたいと強く思いました。

それから私は、医者になるという夢に向かって、毎日の勉強をがんばるようになりました。定期テストで上位の成績をキープするために、苦手教科をつぐらないようにしました。特に英語の勉強には力を入れました。日本だけでなく、もし将来、海外の医師や患者さんと関わることができたら、それはすばらしいことだと思います。そのときに、英語は大きな力になります。英語が話せることで、世界中の人々とコミュニケーションがとれます。そして、最新の医学情報や研究論文などは英語で書かれていることが多いです。それを理解することができれば、もっとよい医者に近づくことができると思います。もちろん、英語を学ぶことは簡単ではありません。文法が日本語と違うのでむずかしかったり、うまく話せなかつたりすることもたくさんあります。でも、少しずつ続けていけば、きっとできるようになるはずだと思います。私は、英検準2級に挑戦し、合格することができました。リスニングや長文読解が難しく感じることもありましたが、何度も問題を解いたり、単語を繰り返したりすることで自信がつきました。合格の知らせを受けたときは、夢に一步近づいた気がして、とてもうれしかったです。

また、私は医療に関する本や小説も読むようにしています。医療の現実をもっと知りたいと思い、『泣くな研修医』という本を読みました。医師としてまだ未熟な主人公が、悩みながらも患者と真剣に向き合い、成長していく姿が描かれています。中でも私が忘れられないのは、命を救えなかった患者に対して、何もできなかつた悔しさに涙を流した場面です。その涙には、ただ「医者になりたい」という思いだけでは越えられない厳しさがあると思いました。この本を読んで、私は「人を助ける」という言葉の重さを改めて、しっかり考えるようになりました。ただ優しい気持ちだけでなく、知識をしっかりと蓄え、また冷静さも必要になるはずです。それでも、苦しんでいる人のそばにいて、少しでも力になれる医師に、私は憧れます。人のために、行動できる大人になりたい。

その思いが、今の私の夢につながっています。「医者になる」というのは、強い思いと覚悟が必要なんだと、この本を通して実感しました。

命と向き合うことは、決して簡単なことではないと思います。医者は、常に大きな責任を持ちながら、患者と真剣に向き合っていかなければならぬことを知りました。もし、自分だったら、正しい判断ができるだろうか。不安な部分もあります。それでも私は、医者になるという夢に向かって進み続けたいと思っています。夢への道のりは、まだまだ遠いかもしれません。でも私は、毎日少しづつでも前に進んでいくことが大切だと思っています。

これから私が挑戦したいことは、もっと難しい資格にチャレンジすることです。たとえば、英検の上の級や、英検に限らず漢検などにも挑戦していきたいと思っています。簡単ではないと思いますが、努力を続けて、自分の夢に一步ずつ近づいていきたいです。また、日々の勉強や挑戦、読書などで少しづつ夢に近づいていく毎日が、私にとっての「チャレンジ」です。

将来の夢の実現にはたくさんの時間がかかりますが、夢がはつきりしている今、私は迷いなく進んでいけると思います。私はこれからも、医者になるという夢に向かって、小さな挑戦を続けていきます。誰かの命を救える人になるために。